

小学校 生活・総合的な学習の時間 部会

部会長名 添田町立添田小学校 校長 益田 茂
赤村立赤小学校 校長 平田 隆司
実践者名 川崎町立川崎東小学校 教諭 松尾 知佳子

1 研究主題

「主体的・対話的な子どもを育てる生活科の学習」
～アサガオ・サツマイモ栽培とそれに伴った体験活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

現代社会は、情報機器や人工知能の急激な発達による情報化の発展が著しい。それに伴い、学校教育においても、ICT 機器を中心とする学習ツールを授業等で活用することで、学びの方法を発展させ、より豊かな教育活動を実践していかなければならない。

また、学校教育は、これからの社会に対応していくために将来にわたって学び続ける基盤を形成し、学びの主体者としての学習者を育てる必要がある。創造的な思考を働かせ、探究的な学びを行う中で、他者と共同するコミュニケーション能力を育て、学びに向かう力を育成していくことが求められている。つまり、「学び合い、支え合い、高め合う」集団づくりを通し society5.0 の社会を生き抜く子どもたちを育てていかなければならない。

学習指導要領において生活科でめざす資質・能力は「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」の3つの柱で構成され、その資質・能力の育成のためには、身近な人々や社会及び自然など、対象と直接関わる活動や体験をすることが大切である。また、このことは、総合的な学習の時間で求められる資質・能力の育成にもつながる。

(2) 児童の実態から

本校の1年生は、町内の6つの保育園・保育所・幼稚園を経て、就学している。就学前にサツマイモの収穫などの体験活動を行ったことのある子どもは100%である。校区内には、田園風景が広がり、栽培の環境として望ましい地域で、日々、畑や農作物を目にしながら生活している。このような恵まれた環境の中ではあるが、日常生活の中で、植物の水やりをした経験のある子どもはいるものの、苗植えから畑の手入れなど、継続的な栽培活動の経験がある子どもは15%に留まっており、植物を栽培する活動は、身近な活動というよりは特別な活動として位置づけられていることがわかる。そのため、本学習において初めて継続的な栽培活動を行うことにより、子どもが生命の有限さを感じることができ、それに関連した体験活動を試みることで主体的な行動につながると考えられる。

3 主題の意味

(1) 「主体的・対話的な子ども」とは

生活科の学習において、具体的な体験や活動を通じた探求的な学びを通して、自ら興味や関心を持ち、粘り強く取り組み、他者との対話を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連づけて楽しさや気づきを表現し、より深く理解する学びを実践することのできる子どものことである。

4 研究の目標

生活科の学習において、アサガオ・サツマイモの栽培やそれに伴った体験活動を通して、主体的・対話的な子どもの育成を図る指導の在り方を究明する。

5 研究の仮説

生活科の学習において、以下のような手立てをとれば、研究の目標を達成できると考える。

(1) 各段階において活動の流れとゴールを明確化する。
(2) 単元を通して世話や観察記録を行い、主体的な学習の時間を仕組む。
(3) 体験活動を設定することで、他者と共働した学習を仕組む。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元「アサガオ・サツマイモ 大きくなってね」

(2) 単元の目標及び計画

単元	アサガオ・サツマイモ 大きくなってね	総時数	18時間	時期	4～1月
単元の目標	○栽培・収穫・調理の活動を通して、生命のつながりに気づくことができる。(知識及び技能) ○観察記録を通して、植物の成長や関わりを自分なりの方法で表現することができる。(思考力、判断力、表現力等) ○栽培活動を通して、植物に成長に関心をもってはたらきかけるとともに、愛着を持ち、大切にしようとする。(学びに向かう力、人間性等)				
次時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(働・嬾)		
一	1	○植物を育てることに興味を持ち、活動への見通しをもつことができる。	・植物の栽培への見通しをもつ。 ・アサガオの種の観察記録をかく。	・体験入学で1年生にもらったアサガオの種を想起させ、意欲をもたせる。	
	1	○土づくりや植え方を知り、アサガオの種を植えることができる。	・アサガオの種を植える。	・デジタル教科書等のICTを活用し、植え方を捉えさせる。	
	1	○サツマイモのつるを植える方法を知り、つるの植えつけができる。	・目的に応じた植え方を選択し、植えつけができる。	・デジタル教科書等のICTを活用し、植え方を捉えさせる。	
二	7	○アサガオとサツマイモの観察を通して、成長に気づくことができる。	・観察記録文をかく。 ・世話や畑の草取りをする。	・観察記録のかき方の観点を知らせる。 ・国語科との関連を図る。 ・二つの植物の比較をさせ、	

				違いに気づかせる。
三	2	○アサガオを使った活動を通して、アサガオへの愛着を深めることができる。	・アサガオのたたき染めや色水づくりをする。	・アサガオとの思い出を残す活動を働きかける。 ・ICTを活用し、活動を捉えさせる。
	1	○アサガオの種取りを通して、生命のつながりに気づくことができる。	・アサガオの種取りをする。	・体験入学を想起させ、新1年生へのプレゼントへ意欲をもたせる。
	2	○サツマイモの収穫することができる。	・畑の整備、サツマイモの収穫をする。	・サツマイモ料理の選択肢を示し、話し合わせる。
	3	○調理方法を話し合い、サツマイモに愛着をもち、進んで調理しようとするができる。	・調理方法を話し合い、調理(やきいも・スイートポテト)して食べる。	・下準備をして、安全に調理をさせる。 ・衛生管理をする。
課外		○家族でサツマイモを食べることを通して、育てた喜びを実感する。	・家庭で家族と調理をし、記録をかく。	・家庭へ生活科の学びの趣旨を伝え、協力を仰ぐ。
	1	○家庭での活動をふり返り、友だちと共有することができる。	・家庭での活動を発表し、感想を伝え合う。	・活動をふり返らせ、賞賛する。

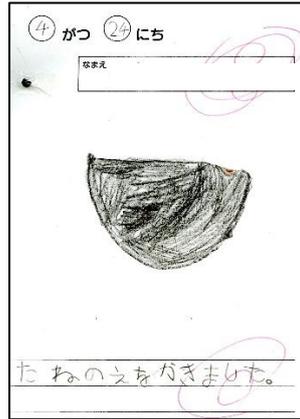
7 指導の実際

(1) つかむ

教師の働きかけ	児童の反応
<p>【はなややさいでやりたいこといっぱい】</p> <p>○これまでの体験活動を想起させるとともに、実際のアサガオの種を見せることにより活動の意欲と見通しをもたせる。</p> <p>○デジタル教科書を活用し、観察の視点(見る、触る、聞く、かぐ等)を示し、観察記録をかかせる。</p>	<p>・これまでの活動経験や気付きを基に、植物について知っていることを話し合い、サツマイモイモ掘り体験やプレゼントされたアサガオの種を想起し、育てたいという意欲を高めた。</p> <p>・観察記録をかく際に、初めは種の大きさと同じくらいの大きさでかく児童もいた。よく捉えている児童の観察記録を紹介し、お手本とすることで大きさを捉えてかくことができた。また、形をよく見て、実際の色を表現するために、クーピーの色を重ねて表現していた。</p>

○アサガオの種をまくときに気をつけること(深さ、向き)に気づかせ、世話に仕方を考えさせる。

○サツマイモを植えるときに気をつけることに気づかせ、目的に応じて、植え方を選択させる。



【資料1】植える種の観察記録

- ・栽培に必要なもの(水・肥料)や世話の仕方を考えていた。水をやる際には、「早く大きくなってね」「きれいな花を咲かせてね」など言語化していた。
- ・アサガオとサツマイモの植え方を比較し、違いを捉えていた。サツマイモの植え方のポイントを知り、一人一本、目的(大きいイモを育てたい、たくさんのイモをつけたい)に応じて植えていた。

(2) 活動する

教師の働きかけ	児童の反応
<p>「はじめまして〇〇さん」</p> <p>①芽が出たよ</p> <p>○以前との違いを捉えさせ、成長に気づくさせる。また、気づきに価値付けを行う。</p> <p>「ぐんぐんおおきくなるよ」</p>	<p>・毎日の世話や観察を通して、変化に気づくことができた。自分のアサガオはもちろん、友だちのアサガオとの変化にも気づき、「芽が出ている」「黒いのがついている」など様々な反応があった。また、自分のアサガオを観察カードにかきたい気持ちも高まった。</p> <div data-bbox="857 1491 1157 1910" data-label="Image"> </div> <p>【資料2】「芽が出たよ」観察記録</p>

②新しい葉っぱ

○観察の視点(見る、触る、聞く、かぐ等)をふり返らせる。

○タブレットで記録写真を撮らせる。

③つるが出たよ(間引き・追肥)

④つるがのびたよ(摘心と支柱立て)

⑤花がさいたよ

・国語科「おおきくなった」の学習と関連させ、観察記録をかかせることで、葉の大きさを自分の手足と比べたり、形をたとえたりして、豊かな表現で記録文をかいていた。

・自分だけのアサガオ記録写真を撮ることで、意欲が増し、観察記録をかくことにも生かしていた。

・間引きをしたアサガオを家庭に持ち帰り、栽培する児童も多くいた。保護者の方からの連絡帳には「登校する前に水やりをしながら話しかけています。」というものもあった。

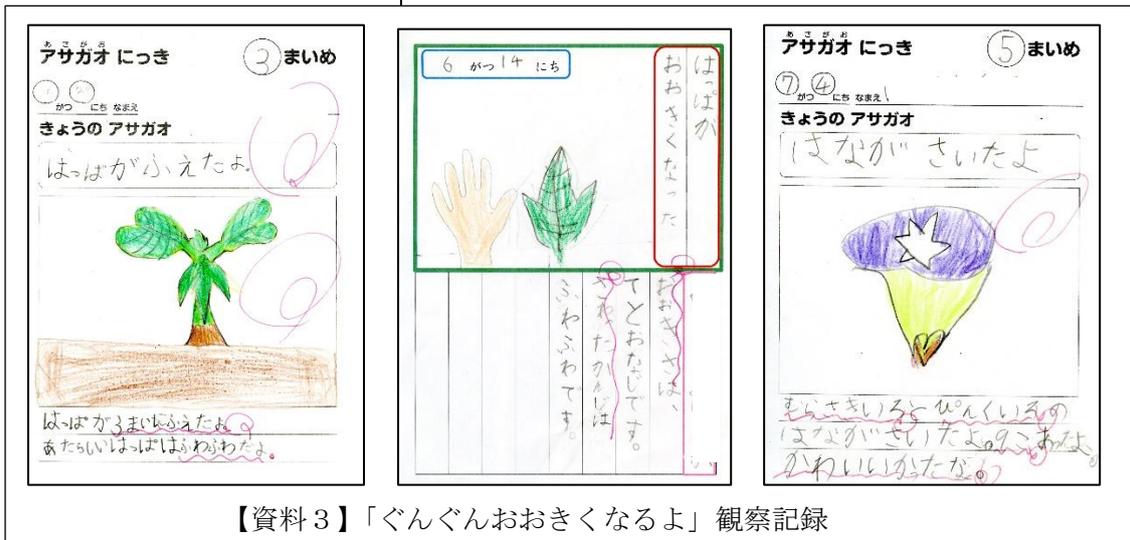
・追肥を行うときには水やりのときと同じように「いっぱい食べて大きくなってね」など声を掛けていた。

・摘心のときにはアサガオの成長を促すためと知りながらも「ちぎって枯れないかな」「痛くないかな」「アサガオさんごめんね」といいながらアサガオの気持ちを考えながら行っていた。

・何色の花が咲くかを予想したり、つぼみを見つけて開花を待ち望んだりする姿が見られた。

・自分のアサガオだけでなく、友だちのアサガオの様子を観察し、「〇〇ちゃんのアサガオが咲いてるよ」など関心をもって活動していた。

・アサガオとサツマイモの葉を観察し、「形が似ている」など比較している姿も見られた。



【資料3】「ぐんぐんおおきくなるよ」観察記録

(3) 活動する (発展・まとめ)

教師の働きかけ	児童の反応
「アサガオさんいつまでもいっしょだよ」	

○ICTを活用し、様々な作品の手本を見せることで、意欲を高める。

○育ててきたアサガオを活用することで、主体的な活動へと導く。

○夏休みに家庭で活動ができるように準備をし、持ち帰らせる。

「きれいなはながだいへんしん」

○植えた種とできた種を比較させる。

○体験入学を想起させ、新1年生へのプレゼントづくり（3学期）へ意欲をもたせる。

「みんなでしゅうかくしたよ」

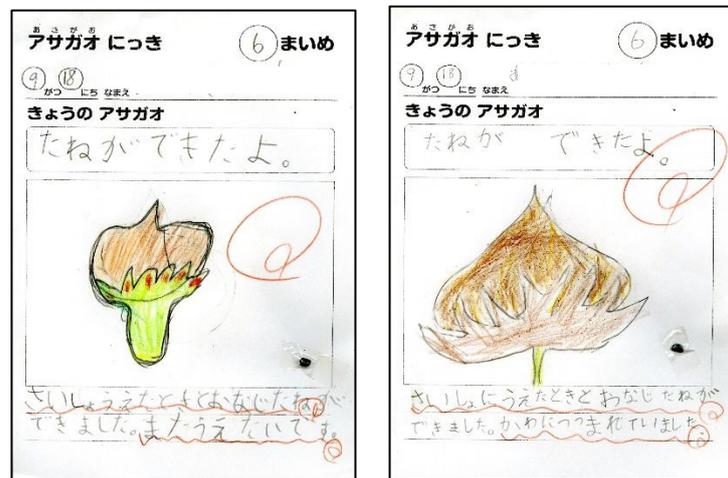
○植えるときに話したことを想起させ、収穫後の活動を知らせ、収穫させる。

・様々な活動や作品を見ることにより、「きれいだな」「自分もやってみよう」と意欲を高めていた。

・花が咲き、しぼんでしまったアサガオを摘み、活動への準備を進めていった。たたき染めも主体的に活動できた。

・家庭での世話や活動にも意欲をもっていた。

・春の観察を想起し、まいた種とできた種が同じ形、同じ大きさであることに気づき、生命がつながっていることに気づいていた。



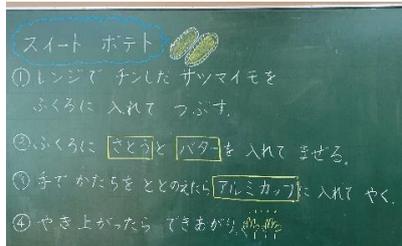
【資料4】 できた種の観察記録

・同じ種が取れたことで、新1年生へのプレゼント(1月)を作りたいと意欲を高めていた。

・サツマイモを食べることに関心をもち、傷つけないようにたくさん収穫をしたいという気持ちをもって活動していた。また、友だちと協力し、深くまで一生懸命掘る姿が見られた。

○サツマイモを食べる話し合いをするために作りたいものを考えておくよう働きかける。

○児童が安全に簡単に調理を進められるように、下準備をしておき、グループ活動を仕組む。



【資料6】スイートポテトの作り方



【写真4】

教師が準備したやきいもを食べる様子

「かぞくといっしょにつくってたべたよ」
○家庭へ生活科の学びの趣旨を伝えたり、学校で調理したレシピを



【写真1】さつまいもを掘る様子

・サツマイモ料理について家庭で聞いたり、教科書を見て情報を集めたりして、自分で作りたいものを考えていた。話し合いの結果、サツマイモとスイートポテトに決めることができた。



【資料5】児童のメモ

・グループでのスイートポテトづくりを通して、自分たちでイモをつぶす順番を決めたり、力を合わせてつぶしたり主体的な姿が見られた。



【写真2】スイートポテトを作る様子

【写真3】作ったスイートポテト

・できあがった料理を食べ、「みんなでつくって楽しかった」とグループ活動のよさを実感できた。また、「世界一おいしい」「お店のスイートポテトは苦手だけど自分でつくったものはおいしかった」「お家でもつくってみたい」という感想をもっており、家庭での活動にも意欲を高めていた。

提供したりして協力を仰ぎ、子どもたちと調理を行ってもらい、子どもたち自身の成長や学びにつなげる。



【資料 8】記録の例



【資料 7】サツマイモ料理の感想

・生活科での学びをもとに、冬休みにサツマイモを使った調理に意欲的に取り組んだ。家族とのつながりを感じたり、家族にほめてもらったりすることで、自分の成長を感じることができた。



【写真 5】家庭での調理の様子(保護者提供)

○冬休みの実践をグループで交流したり、全体で発表させたりすることで、自分の成長に気づかせる。

【つくったもの】 (きょうがしよの77ページを見てもいいです。)

サツマイモのみそしる。

①


②


③


④


おいしいみそしるができた
がりました。







【かんそう】

ぼくがかんぱったことはかたしサ
ツマイモをきったことであいかた
んがまいにちごはんをふくま
いとおいました。

【資料9】 サツマイモ料理の感想

・発表する前から、互いの実践に興味をもち、伝え合いた
い気持ちを感じられた。また、自分ができたことに喜びを
感じたり、友だちができたことに感心したりすることがで
きた。



【写真6】 グループ交流の様子



【写真7】 発表の様子

8 研究のまとめ

- (1) 各段階において活動の流れとゴールを明確化する。
 長期にわたる単元であったが、世話→観察→変化への気づきの記録という一連の流れを示す
 ことで見通しをもって学習することができた。また、体験活動を行うというゴールを明確にす
 ることにより、子どもたちは目的意識をもって取り組むことができた。
- (2) 単元を通して世話や観察記録を行い、主体的な学習の時間を仕組む。

自分の鉢を世話、前回との比較、友だちとの比較をくり返し、その意欲や気づきを賞賛することにより、主体的な活動へとつながった。自分の栽培した植物を活用することにより、主体性がさらに高まった。

(3) 体験活動を設定することで、他者と共働した学習を仕組む。

同じ目標に向かって体験活動を行うことで、協力しながら取り組むことができていた。学校で、友だちと行うことに特別感をもった子どもも多く、主体性の向上につながった。また、自分の成長への気づきや友だちとのつながりの大切さへの気づきにもつながったと考えられる。

9 成果と今後の課題

○家庭と連携し、長期休業中のアサガオの世話やサツマイモ料理への協力を図ることで、体験活動による主体的な姿や、自分の成長、家族とのつながりへの気づきにつながったと感じる。

- ・いつもとちがうことに挑戦できた。
- ・初めて包丁でサツマイモを切った。
- ・今までできなかったことができるようになった。
- ・またやりたい。
- ・一人でできるようになりたい。
- ・毎日ご飯を作っているお母さんはすごい。

【子どもたちの感想の一部抜粋】

○活動する(まとめ・発展)段階における家庭実践交流において、子ども同士の対話を通じて、自己の考えを広げ、楽しさを伝えたり、気づきを表現したりすることができた。

○継続的な栽培活動や収穫を通して、生命のつながりに気づくことができた。また、事後のアンケートでは、全員が次年度の栽培活動に意欲を示していた。

●アサガオ、サツマイモを継続的に栽培し、観察する活動は、天候に大きく左右されたり、個体差があったりするため、時間の確保と様々な工夫が必要である。また、害虫や猛暑により枯れてしまった場合、主体性や意欲が低下しないような手立てを考えていく必要がある。

●家族とのつながりを実感できる活動を仕組むことはできたが、地域の方とのつながりにまで発展できなかった。地域の方に栽培方法を教えていただいたり、サツマイモと一緒に調理していただいたりする交流の時間を設定すれば、さらなる主体性の高まりにつながるのではないかと考える。

◎ 参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説 生活科編」 文部科学省 平成29年